



## すずか倶楽部 中西 大輔 議員

- 1 駅の多機能化について
- 2 街区整備地周辺環境について
- 3 市庁舎分煙の徹底について

**質問1(1)** 近鉄伊勢若松駅について、災害時の避難場所として考えられるが見解はどうか。バリアフリー化とあわせての取り組みはどうか。地域防災計画での位置づけ見直しの検討は。

**答弁1(1)** 伊勢若松駅を避難施設とする必要性は立地条件等を考慮すると、高くないと考えている。バリアフリー化は近畿日本鉄道に働きかけたい。

**質問1(2)** 観光拠点としても考えてはどうか。

**答弁1(2)** 本市の玄関口である白子駅前の、鈴鹿市観光協会がその役割を果たしていると考えている。

**質問2** 防災公園街区整備事業地周辺について、開発に伴い交通需要が増え、交通事故リスクなども増えるが、その対応をどう考えているか。旭ヶ丘小学校隣接地を計画地との間の公園などに利用することを提案してはどうか。

**答弁2** 周辺の道路等への影響等について、UR(都市再生機構)と関係部署で行う設計協議で検討したい。地元から小学校の隣接地に公園等の設置を求める要望書の提出があったと聞いている。NTT西日本やURに対して市からも要望したい。

**質問3** 庁舎分煙を徹底し、喫煙可能場所を1階と15階に限定すべきと考えるがどうか。

**答弁3** 職員に対して節度ある喫煙行動をとるよう注意喚起を促し、分煙の徹底に努めていきたい。



## 市民クラブ 太田 龍三 議員

- 1 道徳教育について
- 2 不登校対策について

**質問1** ①道徳の指導計画(指導内容)は。②文科省の委託を受けた道徳教育の実践研究とは。

**答弁1** ①「道徳教育の充実」が示されている。年間35時間の道徳時間を中心として実態に合った教材や副読本を活用したり、他の教科と関連付けて考えさせたり、学んだことを実感として感じとらせる体験活動を行ったりと発達段階に応じて創意工夫しながら取り組んでいる。②本年度は、小学校1校を研究推進校に指定し、道徳の時間を要として地域のひととの交流や自然とのふれあいといった体験活動を活かした道徳教育を推進してい

く予定。

**質問2** ①不登校児童生徒数について全国・三重県平均と照らし合わせながらの割合は。②中学校で増加する不登校生徒の要因は。③不登校に対する対策、取り組み、今後は。

**答弁2** ①平成21年度、全国では、小学生313人に1人、中学生36人に1人。三重県では、小学生294人に1人、中学生36人に1人。本市は小学生256人に1人、中学生34人に1人の割合。②中1ギャップ(中学1年生になったとたん、学習や生活の変化になじみず不登校となること)や社会不況、家庭問題と多岐にわたる。③「けやき教室」「さつき教室」開設。臨床心理士2名を研究所に、教育相談員を各学校に配置。医療や福祉等の関係機関との連携をする。



## すずか倶楽部 原田 勝二 議員

- 1 市政運営の見える化について
  - (1) 鈴鹿市職員懲戒基準の公開について

**質問1(1)** 職員の不祥事を防止する為、懲戒基準を公開し、その情報を市民と共有することにより、抑止効果が向上するのではないか。優良企業では、コンプライアンスは守るから攻めのツールとして、社員を鍛えている。このような基準が、誰でも、どこでも、いつでも見ることが出来る市政運営が問われている時代。公開の時期と方法について、新市長の考えを問う。

**答弁1(1)** 本市の懲戒処分の指針については、各任命権者の行う懲戒処分が、より一層厳正に行われるよ

う、処分量定を決定するに当たっての参考にするための指針として国が定めたものに準じた形で作成している。この指針の中で標準例として、懲戒処分の対象となる代表的な事例とその標準的な処分量定を掲げている。この懲戒処分の基準については、庁内LANで公表し、職員間では情報共有を図ってきた。また、新規採用職員を対象とした研修の中でも資料として配付し、周知徹底を図ってきた。今後は、職員に対する抑止効果を更に高め、市民全体の奉仕者として一層の自覚と努力を重ね、市民の期待に応える一助となるよう基準の公表に取り組んでいきたい。「公表の期日は、概ね8月初旬とし、方法としては、市のホームページや市報などを活用する方向ですすめたい。」